



第 54-1 次調査遺構図

奈良・藤原京跡

1 所在地 奈良県橿原市木之本町
2 調査期間 一九八七年（昭62）四月

3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

4 調査担当者 代表 牛川喜幸

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 七世紀末～八世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

藤原宮第五四一～五五〇次調査として行つたもので、調査地は藤原京左京六条三坊西北坪の東南部にあたり、第五〇次（西）調査地（『木簡研究』第九号参照）の西約一〇mの地点である。東西三m、南北一二・八mの調査区を設定して行い、面積は三八・四m²である。

主な遺構は第五〇次調査地より続く東西大溝SD四一二～一三〇や、調

査区の北端で南岸から幅一・六m分を検出した。しかし想定位置より約一〇m北へずれるため、この地点と第五〇次調査地との約一〇mの間で溝が屈曲しているとみられる。深さは一・六m、堆積は二層あり、上・中層は奈良時代、下層は藤原宮期である。木簡は中層から一点出土した。他に上層からパルメット押捺文軒平瓦、下層から山田寺系の单弁八弁蓮華文軒丸瓦が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「\尾張国海部郡魚鮓三斗六升\」

172×20×5 031

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(八)』（一九八七年）

同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報一八』（一九八八年）

（加藤 優）